

東日本大震災・被災者一時避難受け入れ支援

「北海道～東北・こども笑顔プロジェクト」

「北翔大学夏休み北海道リフレッシュプログラム」

報 告 書

平成25年11月

北翔大学・北翔大学短期大学部

リフレッシュプログラム報告書

8月12日(月)から20日(火)までの9日間、一昨年、昨年に引き続き、北翔大学同窓会淑萃会等のご支援により、標記のプログラムを実施し、保護者の方を含めまして24名の方々にご参加をいただきました。

失礼ながら書面にて、以下に簡単にご報告させていただきます。

この件に関しまして、皆さまから多大なるご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

<第1日：8月12日(月)>

朝、仙台を出て、参加者をお迎えするため、南相馬市原町区小川町の原町生涯学習センターへ向かいました。今年は、1年目から子どもたちの世話をしてくれている大学院の学生と一緒にです。仙台からはJRの常磐線を利用しましたが、まだ今年も、常磐線は全線開通しておらず、亘理から相馬の間は相変わらず臨時代行バスで移動しました。

実は、集合場所は、昨年と同じところです。2年前の第1回からお世話になっている南相馬市の原町生涯学習センターがこの場所に移転して来ていて、職員の方々が暖かく迎えてくださり、今年も南相馬市の現況に関する最新資料のご恵贈をいただきました。



参加者は、猛暑の中、全員元気に集合し、互いに久しぶりの再会を喜び合いました。事前に送ってあったお揃いの赤いTシャツを着て、皆元気いっぱい、お家の方に連れられて集まってくれました。大勢のお見送りの方とも記念撮影をしてしばしの別れを惜しみ、仙台港を目指して賑やかに出発しました。

仙台フェリーターミナルでは、福島市から参加の11名も元気に合流し、みんなでお弁当の夕食を済ませて「きたかみ」に乗り込みました。

今年の部屋も又体育館のような大部屋でしたが、多くの子どもは2回目、3回目の参加ですから、伸び伸びと我が家のように過ごしていました。三々五々に入浴し消灯。今年は好天に恵まれ、航海は終始穏やかで、全員船酔いもなく、ゆっくり休んだようでした。



<第2日：8月13日(火)>



長・両学長・同窓会長が出迎え、歓迎会が開催されました。一週間一緒に過ごす学生ボランティアも参加し、参加者と教職員やボランティアそれぞれ自己紹介をして、交流を深めました。

朝は、お腹が空いた人から順番に自由に食事に行きました。到着まではのんびり過ごしていました。定時に苫小牧港へ到着し、いよいよ期待に胸をふくらませての下船です。今年も待望の涼しい北海道が迎えてくれました。

大学では、理事



その後、子どもたちは長旅の疲れも見せず、学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒に浅井記念館アリーナに向かい、ボール遊びやテニスなどを楽しんだ後に「じゃんけん列車」、「てつなぎおに」、「猛獣狩りに行こうよ」などのミニレクで子どもたちも学生も夢中になり広い体育館を駆け回り、思い切り体を動かして汗を流しました。体育館の中で息を切

らしながら笑顔で走り回っている子どもたちの様子が、大変印象的でした。最初のプログラムから予定時間を大幅に超過するほど盛り上がり、楽しく滞在がスタートしました。



初参加の6名の子どもたちもいっぺんに皆に溶け込んだ様でした。

<第3日 8月14日(水)>



この日は北海道新聞社会福祉振興基金から招待券を戴いた札幌芸術の森で開催中の大マンガ展を鑑賞しに出かけました。作家70人出展原画は千点以上の文字通りの大マンガ展！子どもたちは展示された原画をじっくりと鑑賞し堪能した様子でした。

会場を後にして森の中を散策する子どもたち、屋外美術の鑑賞と芸術に触れあう良い機会でした。出発の頃雨が降り出してきましたので、帰りのバスの中では夕方の盆踊り大会が心配でした。しかし、大学に着く頃には雨も上がり、無事賑やかに会場に向かいました。



盆踊り会場では野幌商交会などの地元の方々が席を用意してくださり、夕食に江別産小麦「はるゆたか」を使用した冷やしラーメン、メロン、とうきびなど地の旬をおいしくい



ただきました。また出店で使用できる券もいただき子どもたちはかき氷を食べたり綿菓子を買ったりしました。



出店を楽しんだ後子ども達は盆踊りに参加し、お兄さんやお姉さんと楽しく踊り満足したようでした。景品もいただきました。

<第4日 8月15日(木)>

この日は札幌さとらんどへ行きました。広い施設内には農場や花畑のほかに遊具施設もあり解放感いっぱいです。今日は北海道テレビ放送の取材もあり子どもたちは少し緊張気味でした。お昼ご飯を食べた後は各班に分かれ散歩したり、自転車や滑り台で遊んだり時間が過ぎるのも忘れて楽しみました。保護者の方は収穫体験を楽しんだりもされてました。



そしてお待ちかねの手作りアイスクリーム体験の時間がやってきました！施設の方からの作り方の手順説明を真剣に聞いて、材料をボールに入れて冷やしながらグルグルと混ぜると徐々にアイスクリームが出来上がって完成！出来立てのアイスをおいしく試食。おいしいー！うまい〜と子どもたちは自分で作ったアイスクリームにご満悦の様でした。

帰りの途中に温泉に立ち寄り日中流した汗と疲れを癒し大学に帰着しました。

夕食後は楽しみにしていた花火をしました。



<第5日 8月16日(金)>

この日は小樽観光です。大塚駅から JR に乗り、海を眺めながら小樽に到着しました。まず、寿司屋通りで名物の海鮮丼の昼食です。ユニやイクラがたっぷりのご馳走に大満足の様でした。

その後は小グループに分かれて、ボランティア学生とともに事前に計画した通りに小樽市内を散策しました。



中には小樽水族館まで足を延ばした人もいました。この日の小樽市内の気温は 34℃あり、福島に負けないくらいの暑さになりました。つついアイスクリューやケーキ・冷たい飲み物に手が出ます。ガラス館やオルゴール堂を巡り帰路につきました。

帰りの電車の中ではぐっすり眠っている人もいて、暑さと遠出で少し疲れたようでした。子どもたちの赤い北翔大学のTシャツは電車の中でも目立ち、他の旅行者から質問を受け、話し合う機会にもなりました。

<第6日 8月17日(土)>

北海道には珍しく蒸し暑い日々が続く中、今日は待望のプール遊びの一日です。朝の学習を予定通りに行って、いつもより集合は素早く、はやる気持ちを抑えてバスに乗車しました。いよいよ、グループに分かれてのプール遊びの開始です。少し小雨が降っていましたが、お盆休みの土曜日とあって超満員の人ごみの中を、元気に泳いだり、ボランティアの学生と水かけをするなど、楽しそうな様子があちらこちらに見られました。保護者の方々は温泉を利用して、大浴場で心身の疲れを取り除いておられました。

夕方4時に夕食会場のサッポロビール園に向かい、ジンギスカンをいただきました。この夕食は北海道新聞社会福祉振興基金の招待によるもので、札幌に避難されている東北出身者の方々と交流の機会でもあり、現地の情報を交換してお互いに励ましあう姿が見られました。



<第7日 8月18日(日)>

この日は1日フリータイムでした。子どもたちが予め自分の行きたいところを学生ボランティアに相談しながら、ガイドブックを調べて自分たちでいろいろ計画をしたことを実行する日でした。

6グループに分かれて、子どもたちと学生ボランティアと教職員で、それぞれの目的地に行きました。例えば、札幌市内で買い物、食事をした後、円山動物園に行ったグループ、カラオケやボウリングなどを楽しんだグループなど、それぞれ楽しい一日を過ごしました。円山動物園に行ったちびっ子は、はしゃぎすぎて帰りにはくたびれ果ててしまっただけで歩けなくなるほど遊び倒しました。買い物に出掛けた女の子達は、朝から、JR札幌駅ステラプレイスにて、ウィンドーショッピングやお土産探しに没頭しました。ディズニーショップ、スヌーピータウンショップなど、地下街の物産特産品ショップと、ステラの中を上がったり下がったり・・・、夕方まで、ショッピングを楽しみました。「思う存分楽しみました！」という感想が聞けて私たちも嬉しかったです。

<第8日 8月19日(月)>

本学滞在の最終日で、午前中は帰りの準備や滞在していた雅館の清掃に汗を流していました。その後、サヨナラパーティが開かれ、理事長や学長、同窓会長のあいさつの後、子どもたちと保護者は、教職員や学生、参加して下さった市民の方と一緒に会食しました。

江別市の方が、お菓子や文房具を差し入れしてくださいました。また、2日目に盆踊りに招待して下さった野幌商交会の方が盆踊りの時に撮影された動画をDVDにして一人ずつにお土産に持ってきてくださいました。さらに、のつけ盛り井の会社の方が、生のイクラをたくさん持ってきてくださいました。自分でイクラを好きなだけご飯に乗せてイクラ丼を作るサービスが振る舞われた時は、子どもたちは大感激で大はしゃぎでした。



何回もお代わりをしている子どももいました。

食事が一段落したら、吹奏楽団のお兄さん、お姉さんの楽しい演奏を聴いて盛り上がりました。本学の吹奏楽団は、昨年福島県南相馬市の小学校にも演奏に出掛けていますが、その時にお会いしている参加者とは数ヶ月ぶりの嬉しい再会でした。ディズニーやアニメの主題歌などみんながよく知っている曲が次々に演奏されて、楽しいひとときでした。



そして、テーブルスピーチでは、子どもたちや保護者に、思い思いに滞在中の思い出などを語っていただきました。中には、涙声になる子どもたちもいました。



子どもたちとの濃密な時間を過ごさせていただいた学生ボランティアもスピーチさせていただき、子どもたちとの熱いひとときのことを語りました。



次に、野幌商交会の方からいただいたばかりの、盆踊りの時のDVDの一部を大きなスクリーンに映してみんなで見て、楽しかった夜を思い出しました。そして、最後に学生ボランティアが時間をかけて作った、子どもたちや保護者と学生ボランティアが写ったデジカメ画像をスライドショーにして音楽をつけたものを上映し、リフレッシュプログラムの思い出を皆で共有しました。

お開きには、参加者は大学関係者全員で作ったアーチの中を、吹奏楽団が演奏してくれた「宝島」の曲に送られて、退場しました。もちろん、涙涙のお別れです。

子どもたちは出発までの時間を学生ボランティアと過ごし、別れを惜しまました。バスに乗り込む前には素晴らしい感謝の絵が贈られました。



午後3時半、いよいよ出発です。大勢の教職員や学生ボランティアに見送られて、大学を後にしました。子どもたちも保護者も泣いていて、もらい泣きをしている学生も多く見られました。



苫小牧港に移動し、定刻通りの仙台行のフェリーに乗りました。フェリーでは、部屋は往きより小さな部屋で、他のお客のいない自分たちだけの部屋でしたので、みな思い思いにくつろいで過ごせました。「楽しかったね」「おいしかったね」など、楽しかったたくさんの思い出が子どもたちから語られました。

<第9日 8月20日（火）>

定刻に仙台港に到着し、仙台港で解散する皆さんとはお別れをしました。その後、バスにて、南相馬市に移動しました。定刻よりやや早く、南相馬市の原町生涯学習センターに到着し、参加者とお別れをしました。

解散場所では、原町生涯学習センターの方が一行を温かく迎えていただき、本学関係者を労ってくださいました。迎えに来た家族を見て、子どもたちはほっとすると同時に、楽しかったリフレッシュプログラムの思い出を語っていました。

全員元気でご家族の元へお送りすることができまして、心から安堵いたしました。

重ねまして、本プロジェクトをご支援賜りましたすべての皆様に衷心より深く御礼申し上げます。

以上

皆様お世話になりました！！

北翔大学同窓会「淑萃会」

株式会社 アインフーマシーズ

宮崎自動車工業株式会社

野幌商交会

札幌東法人会江別支部

野幌料飲商店組合

有限会社 島田塗装

北海ぼん太

松浦せつこ

藤塗装工業株式会社

山口自動車工業株式会社

株式会社 グリーンハウス

株式会社 町村農場

江別市

北海道広域避難アシスト協議会

北海道新聞社

公益財団法人 北海道新聞社会福祉振興基金

南相馬市原町生涯学習センター

順不同

<本件お問い合わせ先>

069-8511

北海道江別市文京台 23 番地

北翔大学エクステンションセンター

棟方 章子

Tel 011-387-3939 Fax011-387-3746

e-mail munakata@hokusho-u.ac.jp